

# 薬草園の花だより

第8号

2018年(平成30年)2月26日発行

## ■第8号に寄せて

先月末には思いがけない大雪に見舞われました。雪国の人たちから見たら笑われそうですが、関東地方、特に首都圏は雪に弱く、大混乱となりました。しかし、薬用植物園にてはあの大雪の下でも春を待つ植物が確実に動き始めました。

今、薬用植物園の温室の入り口では、切り落とした木材を材料にした人形が日向ぼっこしながら私たちを迎えてくれています。これらは管理運営委員会の黒木委員の作品です。ここには2つだけ紹介していますが、他にも様々あって見てまわると楽しいですよ(顔が作者に似ているかも……)。

薬用植物園の圃場には、現在、パンジー・ハボタンなどが目立つ程度ですが、昨年の秋に様々な仕掛け(新たな球根類などの植え付け)をしました。また、今年になってから新たなハーブ類も多く導入しました。この春にその仕掛けが動き出すのを楽しみにしてください。今年度はさらにたくさんの薬草・毒草を導入し、いくつかの催し物も開催したいと考えています。また、地域の方々への開放の仕方も考えていきたいと思っています。前回の『薬草園の花だより』にも書きましたが、薬用植物には、きれいな花や実をつけるものも多いので、これらを楽しみにすることから薬草に興味を持つことも大いに結構なことと存じます。薬用植物園への御支援・御協力のほど、引き続き、よろしくお願ひ申し上げます。(船山)



薬用植物園温室前にて  
「フー 極楽」



同上「ブッシュアップ! もう少しだゾ」

## ■今咲いています・見頃です

### 《アマリリス》

アマリリスはまさに妖艶と言うべき大きな花を付けますが、現在、薬用植物園の温室にて開花中です。正確に言えば、



アマリリス

2本目の花茎の開花中です。アマリリスの本来の開花時期は春爛漫になってからですが、今年は、球根に処理をして花の少ない今の時期に咲くようにしたものを持ちました。今、一般に栽培されているアマリリスはオランダで改良されたルドウツィヒ系アマリリスと称されるもので、かつてはその球根が高価で垂涎の的でしたが、現在は手に入れやすいものとなりました。逆にかつて剣弁咲きとか在来種と言われた原種が手に入りにくくなりました。今回も大分探したのですが、手に入れられませんでした。今咲いているアマリリスに香りはありませんが、半世紀も前に栽培した原種系のアマリリスの素朴な香りの思い出がまだ鼻に残っています。

アマリリスはヒガンバナやスイセン類同様、ヒガンバナ科の植物で、ヒガンバナアルカロイドを含んでいます。ヒガンバナアルカロイドは有毒物質として知られていますが、そのうちのひとつであるガランタミンは2011年にアルツハイマー型認知症への応用が認められました。なお、私たちが今アマリリスと呼んでいるものは正確にはアマリリスではなく、その正式な属名 (*Hippeastrum*) からいえばヒッペアストルムと呼ぶべきです。一方、アマリリス (*Amaryllis*) という属名を持つ植物の方は現在、ホンアマリリス (*Amaryllis belladonna*) と呼ばれています。

### 《スノードロップ》

薬用植物園の温室の北側の花壇にスノードロップが顔を出しました。別名をマツユキソウ(待雪草)ともいうこの植物もヒガンバナ科の植物で、ヒガンバナアルカロイドが含まれています。この花が咲くと、まだ冬の寒さは残っているものの春がすぐそこまで来ていることを知らされます。この写真撮影は、現在、薬用植物園で植物のお世話をしてくれる野本有香さんによるものです。なお、この植物を大型にしたような雰囲気の植物で春爛漫になってから咲くのがスノーフレーク(オオマツユキソウ、大待雪草)です。



スノードロップ

### 《フクジュソウ》

薬用植物園の北側に桜並木があり、その下にいくつかの花壇が作られていますが、その

うちの一つの落ち葉の間からフクジュソウが顔をのぞかせていました。フクジュソウは福寿草と書き、いかにも縁起の良さそうな名前ですが、実はその全草にシマリンという強心成分が含まれています。強心成分というと心臓に良さそうな薬というイメージがありますが、間違えないでください。強心成分の意味は心臓を強くするという意味ではありません。いわば心臓毒と言った方が正しいです。

フクジュソウの他の園芸植物にも、スズランにはコンバラトキシン、オモトにはロデインという強心成分が含まれ、それぞれ、中毒事故も起きています。いずれも充分な注意が必要です。



フクジュソウ

## ■他にもこんな植物が見られます

### 《ハナミョウガ》

薬用植物園の温室でショウガ科のハナミョウガ (*Alpinia officinarum*) が花を咲かせ始めました。この植物は中国原産の多年草で、その根茎をリョウキョウ（良姜）といい、芳香性健胃薬などに応用されています。この写真の原板も前出の野本有香さんによるものです。



ハナミョウガ

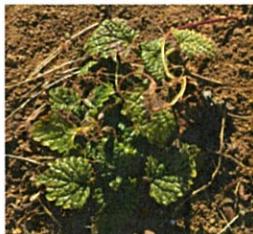
### 《リコリス sp.、レモンバーム、ミツバアケビ》

昨年の夏の終わり（秋の初め）に花茎だけを出して綺麗な花を着けたりコリス類はその後、葉を出しています。まさにその別名通り、「葉見す花見す」ですね。また、早くもレモンバームの芽がだいぶ出てきましたし、ミツバアケビの蔓をよく見ると、その芽も膨らんできました。これから、陽光のもと、次々と植物たちのドラマが見られることになります。

薬学生の皆さん、これらの植物たちの中には、薬として私たちの役にたつものがあること、また、毒として私たちの生命に関わるものもあることについて興味を持って学びましょう。薬用植物園は常にそのチャンスを提供し続けようと考えております。



リコリス sp.



レモンバーム



ミツバアケビ

## ■薬用植物園からのお知らせ

### 《ユズ茶召しませ》

前回の『薬草園の花だより』でお知らせしました様に、薬用植物園で実ったユズを使って香りの高いユズ茶を作り、皆さんにも楽しんでいただくことにしましたが、予定していた1月22日（月）は、あの大雪となってしまいました。大雪の中、参加してくださった方もいて大感謝でしたが、機会を逃した方もいらっしゃるのではないかと思う。そこでいわばリベンジです。3月1日（木）および2日（金）の12：00～14：00にあらためて、ゆず茶を提供することにしました。場所は前回同様、薬用植物園温室です。学生・教職員皆様のお越しをお待ち申しあげております。

### 《挿し木用のアロエの切り落としがあります》

先のお便りにて開花をお知らせしたキダチアロエ（ツルボラン科）の株が大きくなりすぎましたので剪定しました。その切り落としが大きなバケツに2つ位あります。切り口が十分に乾いていますので、このまま室内にて鉢土に挿しておけば簡単に発根します。必要な方に差し上げますので、試してみたい方は、温室中央の管理室までいらしてください。

発行：日本薬科大学薬用植物園管理運営委員会  
委員長（薬用植物園長）／船山信次  
副委員長／山路誠一  
委員（教員）／野口博司・西川由浩  
新井一郎・糸数七重  
委員（事務）／今村隆・笹井彰・鈴鹿和子  
土屋翔太郎・天野崇教・黒木重夫